

知事記者会見の概要

日 時：平成30年1月4日(木) 10:31～10:55

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報推進課長

出席記者：13名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 平成30年 年頭あいさつ

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

知事

県民の皆さん、記者の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

平成30年の新しい年が始まりました。今年は、太陽が出て青空が広がり、誠に穏やかな元日でありました。県民の皆さんも清々しい気持ちで新春を迎えられたことと存じます。

箱根駅伝、終わりましたけれども、優勝した大学のアンカーが山形県出身の選手でありました。正月早々、大変明るい話題であったなと思っております。

今年は戌年であります。

戌は「草木が枯れる」という意味や時期だそうですが、決して悪い意味ではなくて、「次の新しい命につなぐ、新しい命を守る」という縁起の良い年なのだそうであります。最も一般的などころでは、犬は安産というのがありまして、私どもが妊娠した時には、戌の日を選んで腹帯を巻きました。今にして思いますと、犬の安産にあやかるだけでなく、「お腹の中の新しい命を守る」という意味でもあったわけであります。この「安産」の年でありますので、是非、少子化対策にも結びついて、繋がってくればいいなという期待もしているところであります。

さらに、新しいことをスタートするのに良い年、成長する年ともいわれております。私は今年も、県民の幸せのため、県勢発展のために、ワンちゃんのように元気に駆け回りたいと気持ちを新たにしているところであります。

さて、新しい年を迎えて思いますことは、山形県の価値を高め続けなければならないということでもあります。もちろん、本県には現在も誇るべき価値と財産がたくさんあります。

数々の伝統文化や伝統芸能などが県内各地で受け継がれてきておまして、東日本随一の精神文化は日本遺産となったわけであります。

美しく豊かな自然や田園風景、数多くの神社仏閣、そしてそこで繰り広げられるお祭りや伝統行事は、まさに日本の原風景ともいえるものであります。スペインをはじめとする欧州では、日本の原風景を見たい人が多いと聞いてまいりました。

それから、35市町村全てに湧き出ている温泉、54の酒蔵、14のワイナリー。

また、さくらんぼをはじめ美味しい果物や野菜、つや姫をはじめとする米、17を数える蕎麦街道。県内各地で味わえる特色あるラーメン。上質な牛肉や豚肉。さらに芋煮や寒鰯汁などの郷土の食文化などなど、多数ございます。

「美食県山形」として自信を持って、これまで以上に発信を強化する必要があると考えております。

欧米では「食」をテーマに観光客を誘致する「ガストロノミーツーリズム」が注目されているようですが、美食県山形だからこそ、温泉と郷土料理や地酒、あたたかいおもてなし、伝統文化や景観など、様々に組み合わせて国内外からの交流人口を増やせるのではないかと思います。

今こそ「美食県山形」をおおいにPRして、新しい山形伝説を創ってまいりたいと考えております。

さらに、今の季節ですと、蔵王の樹氷があります。雪があります。本県は、雪国であります。雪国に住んでいる私たちにとりましては、雪は正直なところ厄介なものだと思っております。雪下ろしや雪はきは重労働でありまして、事故も後を絶たないわけでありまして。県民のみなさんの冬場のご苦勞を思いますと、私も胸が痛くなります。雪の少ない地域に県民が移動する現象も起きているとも聞いているところでもあります。しかしながら、だからこそ、子どもの頃を思い出してみたいです。雪が降ると夢中になって外で遊びました。そりやスキー、竹下駄などで一日中駆け回って遊んだものであります。集団で、友達が集まってジャンプ台を作ったり、迷路を作ったりして遊んだ覚えもあります。

雪が降らない国々の人々にとっては、雪は魅力あるものなのだそうであります。つまり、貴重な観光資源になり得るというわけでありまして。冬になると必ず空から舞い降りてきて、春になると溶けてなくなってしまう。そういう、いわば「天からの贈り物」ともいえる雪を上手に活用して、逆手にとって、上手に活用することで、冬の観光を底上げすることができると思っております。雪で地域経済を活性化する取組みを、ぜひ知恵を絞って進めていきたいというふうに思います。新しい山形の雪国伝説を、官民一体となって創っていくべきと考えています。

また、蔵王ですけれども、「世界の蔵王」を復活させるべきだというふうに思います。東京ドーム60個分の広さを誇るスキー場。14のゲレンデ。パウダースノーと喜ばれる特上の雪質。開湯1900年を超える温泉。世界的に希少価値のある樹氷。さらに最近では、斎藤茂吉の「文学の道」が整備されつつありますし、桜並木も植栽されつつあると聞いているところでもあります。夏は涼しいので避暑地に最適でありますし、秋は紅葉（もみじ）が燃えるように美しいです。四季を通して蔵王は大変魅力のある観光地であります。今こそ、全国に向けて、世界に向けて、蔵王の価値をPRすべきだと思います。新しい蔵王伝説を、関係者の方々と一緒に創っていきたいというふうに思います。

庄内地方では、鶴岡市に「サイエンスパーク」ができあがりつつありまして、まさに新しい庄内伝説が開こうとしております。私達は、彼ら若者の活躍をあたたく見守っていきたいというふうに思っております。

置賜地方では、有機ELをどう花開かせるのか。20年以上かかって開通にこぎつけた日本一長い無料トンネルをどう活用していくのか。地域の魅力あるまちづくりが問われていると思います。

また、最上地方では、やはり、縦軸の高速道路が着々とつながりつつあるわけです。横軸であります、地域高規格道路が将来整備されることも見据え、最上の交流人口を増やすための戦略をどう描き、どう進めていくのか。それぞれの地域で、生き残りをかけて、地域に住む方々が主体となって、市町村と県とが更に連携を強め、新しい地域伝説を創っていかねばならない、そういう時だというふうに思います。

新年にあたり、課題ばかり申し上げましたけれども、本県では今年も様々なイベントが予定されております。

まず、2月の初めには、3回目となる「やまがた雪フェスティバル」が開催されます。同じ時期に、東北で初となる「国連世界観光会議」が本県で開催されます。テーマが「雪と文化」でありまして、雪国山形を世界に向けておおいに発信する機会となります。ぜひ、本県の経済、観光などの交流拡大に結び付けてまいりたいと考えております。

それから、5月頃になるかと思われまじけれども、IWCインターナショナル・ワイン・チャレンジ「SAKE部門」の審査会を誘致している最中でございます。これが実現しますと、都道府県で初めて地理的表示GI「山形」の指定を受けた本県が、「酒処山形」として、国内外に知名度向上を図る絶好の機会だと考えております。

また、外航クルーズ船であります。昨年引き続き今年も酒田港への寄港が決まっております。「コスタ ネオロマンチカ」が3回寄港予定と発表されておまして、それだけでなく、新たに「ダイヤモンド・プリンセス」も2回の寄港が予定されているところです。昨年の経験を活かして、本県らしい、心に残るおもてなしでお迎えし、今後の更なる外航クルーズ船の受入れ定着につなげ、地域経済活性化を図ってまいります。

そして秋には、「第21回全国農業担い手サミット」の本県での開催が決まっております。このサミットは、平成10年に、認定農業者数が全国一多かった本県酒田市の認定農業者会議が自主的に全国に呼び掛けて始まったものであります。現在は、認定農業者をはじめとする全国の農業の担い手の皆さんが一堂に会し、農業経営の現況や課題についての認識を深め、農業者自らの経営改善に資するとともに、地域農業・農村の発展に寄与する機会として開催されております。サミットでは中央交流会や式典のほか、県内各地に分かれての地域交流会も予定されておりますので、全県あげて、おもてなしの心で参加者の皆さんをお迎えしたいと考えております。

これらのイベントを通して、全国各地そして世界から多くの方々が本県を訪れますので、山形県の魅力を存分に味わっていただけるよう、しっかりと取組んでまいります。

さて本県は人口減少をはじめ、多くの課題が山積している状況でもありますので、「山形創生」の取組みを全力で進め、「自然と文明が調和した新理想郷やまがた」を実現していかねばならないと考えております。産業振興、そして人材育成は不可欠でありますし、北の脅威も忘れてはならないところであります。「心の通う温かい県政」を基本姿勢に、県民のための県政を推し進め、県民の皆さんお一人おひとりが喜びと幸せを実感して、生き生きと輝いて生きていける、「住んで良し、訪れて良し」の山形県を実現していきたい、皆さんと一緒に創っていききたいと思っております。

結びになりますが、2月に開催されるピョンチャン・オリンピックのスピードスケート部門に本県ゆかりの若者4人が出場する予定です。これは本当に嬉しい限りだと思います。実は、県としてもですね、この4人は応援をしているところであります。ぜひ、メダルを獲得できるように、リンクの上を力強く駆け回ってほしいと期待をしております。

それから、「雪若丸」という、本県の新しい米が全国デビューします。いわば「雪若丸元年」でもあります。「つや姫」同様、多くの消費者の皆さんから愛されるブランドに育

つように、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。県民の皆さんの応援よろしくお願いたします。

本年が県民の皆さんにとりまして、喜びと希望に満ちあふれた、幸せ多い一年となりますよう、心からご祈念を申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。山形創生に全力で取り組んでまいりますので、今年もよろしくお願いたします。

☆ フリー質問

記者

あけましておめでとうございます。山形新聞田中です。今年もよろしくお願いたします。

知事、年頭訓示の中でも今のごあいさつの中でも、キーワードとして「伝説」という言葉が随所に出てきておるのですけども、今年、吉村県政 10 年目に間もなく入るということもあるかと思えますけども、そういった節目と何か関連があるのでしょうか。こういった「伝説」という言葉が使われてるというのが、どのようなところからイメージというか、こう思われたのか教えていただければと思います。

知事

はい、そうですね、一つにはですね、きっかけとなったのはやはり 8,972m の日本一長い無料トンネルの開通がございました。あれはですね、1 代の知事だけでできたことではなくて、もう 3 代も 4 代もの知事がですね、そういう長い年月を要して、しかも多くの皆さんのさまざまな取組みが功を奏して、たくさんの人々の悲願から進んだ、そして開通にこぎ着けたというところがあります。

それを考えますと、やっぱり時間をかけてでも、しっかりと将来のために取り組んでいくということが大事なのだなど、つくづくと思ったところでもあります。そういうことをつくづく考えたものですから、私の任期とはまたちょっとそれではないのですね。何十年もかかって、山形県の新しい歴史が作られていくという、そのことに思いをいたしたものですから、私どもとして、また将来の皆さんの時代の、皆さんのために、県民のためにですね、今からできることをしっかりとやらなきゃいけないなという思いが発端になっております。

記者

YBC の渡辺と申します。よろしくお願いたします。知事、県を挙げて、「蔵王の復活」というようなところをおっしゃいましたけども、今年、あえて「蔵王」というところを選ばれたというか、力を入れていくのかというところの理由、そしてどういったものがあるのか教えていただければと思います。

知事

そうですね、それはですね、国内を見てみますと、上越新幹線ができたあたりからですね、日帰り、新潟のほうにスキーに行くようになって、蔵王のほうに泊まりがけで来るお客さんは少なくなったというふうにも聞いておりました。ですが、雪質はやっぱり蔵王のほうがいいのだと、パウダースノーだからということで、スキー場としてはいいところなのだけれども、そういう交通事情とかですね、あと不況の時代、リーマンショックなどのときにもやはりお客さんが減ったり、また、大震災でかなりキャンセルが出たりですね、教育旅行も戻っていないというようなことが本当にあります。

そして、国外のほうにも目を向けてみますと、オーストラリアとかですね、スキーに来る外国のお客さんは北海道や長野に行っているというふうにも聞いておまして、私は大変残念な思いをしてまいりました。蔵王という国内最大級のスキー場があって、ジャンプ台も冬も夏も使えるようになったわけでありまして、そして先ほど申し上げたように、四季を通して、もうフォーシーズンですね、本当に魅力的なところでもあります。「茂吉の文学の道」（補足：「蔵王文学のみち」）というのも整備されつつあったり、桜も植栽をかなり続けるというふうにも聞いているところでもありますので、ますます蔵王の価値は高まってきているというふうに思います。ここはですね、県だけではできませんけれども、やはり関係者の皆さまと一緒に、蔵王をもう一度、こう、しっかりと PR して人を呼び込むべきではないかなと思っているところでもあります。樹氷という、本当に素晴らしい天然資源もあるわけでありまして、多くの方に訪れていただきたいと思っております。

また、火口の警報といいますか、警戒情報が出たときに私もよくよく分かったのですが、蔵王というところは、本当に、たくさんの宿泊ができる、そういう施設がたくさんあるところなのですね。県内各地からお米ですとか、それからお茶ですとか、野菜、魚、肉、そういったものがどんどんと蔵王に持って行って、蔵王で消費されているのです。県内の観光地の3分の1から4分の1ぐらいが蔵王で占めているのです。そういったことも判りまして、これは蔵王の観光っていうのは山形県にとって大変重要なところなのだということを私は再認識した思いでありました。そういったこともありまして、しっかりとですね、蔵王は「世界の蔵王」と昔言われたわけでありまして、復活していきたいと思っております。

昨年の秋、紅葉（もみじ）の季節でしたけれども、山形市長さんが揮ごうされた石碑の序幕式があったときに、そのあと、私、ずっと山のほうに行ってみたのですが、本当に広くて、また、ドッコ沼のほうにも行ってみたんですけども、本当に深みのあると言いますか、歴史もあって、伝説もあって、トニー・ザイラーさんが来たという記念碑などもあってですね、なんかすごいところなのだというふうに思いました。そういった実感も持りましたので、まだまだ多くの方々に楽しんでいただける観光地なので、ぜひ復活させたいものだというふうに思っております。

記者

すみません、その PR にあたって何か今の段階で知事にアイデアというか、こういうふうなことをやっていくみたいなところ、今のところございますか。

知事

そうですね、ドーンと今日、申し上げたわけでありますので、これから、皆さんと一緒にになって、知恵を絞っていきたいというふうに思っておりますけれども、やはり、今流行りのですね、いろいろな手法も使ったほうがいいのではないかなとも思っております。

記者

TUY の高木と申します。明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。少し柔らかい質問になるのですが、あの、知事、毎年年頭訓示でスーツ、まあカラフルな色のお召しだと思わんですけれど、今年はそのレモンイエローと言うのでしょうか、スーツに込めた思いというのは、何かございますでしょうか。

知事

そうですね、やっぱり元気がよいといえますか、戌年は、ワンちゃんは元気がよいので、「元気よく」ということを考えました。それで明るく、元気よくという、非常に単純な発想からでございます。

記者

ありがとうございます。